

出張報告書

京都FD開発推進センター

深野 政之

日程：2009年11月7日(土)14:00～17:00

行事名：高等教育コンソーシアム信州 第1回FDフォーラム

出張先：信州大学(長野県松本市)

参加者：深野

プログラム

第1部 コンソーシアムの取組報告

1. 「高等教育コンソーシアム信州」について 信州大学全学教育機構 松岡幸司准教授
2. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」について 徳島大学大学開放実践センター 宮田政徳准教授
3. 「FDネットワークつばさ」について 山形大学高等教育研究企画センター 杉原真晃准教授

第2部 パネルディスカッション、『大学連携によるFD活動を考える』

パネラー：宮田政徳、杉原真晃、松岡幸司

司会者：矢部正之教授(信州大学全学教育機構)

総括・所感

長野県内8大学による「高等教育コンソーシアム信州」は、信州大学を代表校として戦略的の大学連携支援GPに採択されて結成された幅広いネットワークであり、単位互換や公開講座、合同就職説明会等の事業と合わせてFD・SD事業にも取り組むこととしている。その第1回FDフォーラムとして、今回はFD・SDに特化した大学連携を進めている四国と山形のコンソーシアムから担当者を招いた。

まず「高等教育コンソーシアム信州」結成の経緯とねらい、今年度の活動計画について大まかな説明があった後、代表校である信州大学のFDについて報告があった。

四国SPODから、SPODの仕組みを4つのコア校一県内ネットワーク各大学のFDと3段階に整理して説明があり、さらに自前講師によるワークショップ型(グループ活動によって成果物を出す)の研修形態が特色として紹介された。

山形大学からは、山形県内地域ネットワークFD「樹氷」から、東日本広域FDネットワーク「つばさ」に発展してきた経緯について、統合型から分散型ネットワークへという、より負担感の少ない連携形態が特色であるとの説明があった。ユニークなこと、楽しいことを発案し実践することにより、負担はあっても負担感のない活動が成功のカギとなる。ただし新しいことを一気にやるのではなく、一年にひとつずつくらいで徐々に増やしてきたとの経験も語られた。

参加者は40名ほどであったが、ほぼ全員が長野県内8大学からであり、質疑では各ネットワークの代表校の役割や小規模大学への支援等について質問が集中した。意見交換でも小規模大学の教職員から、代表校の信州大学に対する要望、期待が多く表明され、信州大学の担当者が対応することとなった。

四国SPODと山形大学のネットワークの組織形態、活動方針、研修形式はかなり違い、良い意味で対称的でもあって、それぞれに強みと弱みがあると思われる。良い点を吸収して本連携PJの活動に取り入れるようにしていきたい。

以上